

救急☆3分トレーニング

Vol. 17

救急課 高度救急研修センター



この「救急☆3分トレーニング」は、救急隊員が日ごろ疑問に思っていることや、知っているようで知らないこと、何となく他人に聞くのが恥ずかしいことなどを、分かりやすく、3分以内で解決するトレーニングです。

新しい隊員さんだけでなくベテランさんも、出動の合間にササッと御覧いただき、今後の救急活動に役立ててください。

★救急の歴史…昭和40～50年代



高度経済成長が続く中、交通事故を含む各種災害事故の急増に伴い、救急現場では、搬送業務だけでなく、応急処置の実施を望む声が次第に大きくなっていくとともに、当時は救急業務の対象とされていなかった屋内の急病人についても、市民からの要望に応じて、搬送するようになってきました。

これらの業務は事実先行型で行われていましたが、昭和53年7月1日、消防庁告示「救急隊員の行う応急処置等の基準」によって、「…（略）…傷病者が医師の管理下に置かれるまでの間において、…（略）…応急処置を施さなければその生命が危険であり、又はその症状が悪化する恐れがあると認められる場合に応急処置を行うものとする。」と明記され、応急処置が救急業務として公的に認められました。

そして、この内容が、昭和61年の消防法一部改正で法律の中に取り込まれることになったのです。

(つづく)



【参考】	救急出動件数	17,842件（交通7,452件, 急病6,674件）
昭和45年	隊別件数	① 中京 2,209件 ② 下京 2,037件
	救急隊数	12隊（下・上・東・右・伏・左・中・南・北・山・淀・松尾）